



# 学校だより 2月号

令和8年1月30日発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

## 「心にもいつも『つながり』を」

副校長 飯島 里香

寒さの中にも少しずつ春の気配を感じる季節となりました。正門前の梅の蕾も固く身を結びながら、静かに開花の時を待っています。その姿は、子どもたちの今の姿とも重なります。新しい学年を目前に控え、今は日々の学習や活動に1つ1つ真剣に向き合い、ゴールに向かって地道に努力を重ねています。確かな歩みの先に、希望に満ちた春が訪れることを感じさせてくれます。

5月号にて『つながり』の話をしていただきました。そこからおよそ9か月の間、本当にたくさんの出会いをいただきました。それは、人との出会いだけでなく、様々な学習場面や教育活動を取り巻く環境もあります。

1つ目は、今年度、本校として力を入れて行ってきた「リーディングDX研究」です。学習活動の中に効果的にGIGA端末活用を入れることによって、文部科学省が提示している「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させることを目指してきました。その中で、自分なりに学習課題を発見・設定し、自分に合った学習方法を見付けたり、共に学ぶ相手を決めたりと、「学び」を自己調整しながら学習にチャレンジしていく子どもたちの姿にたくさん出会いました。全国発表の際に参観者からは、「子どもたちが自分の考えを積極的に発信していて、この方法で学んだことで自信をもっているようですね」「ICTを活用したことで仲間の考えをまとめられ、それを元に友達とたくさん対話していたので一層深い考え方が生まれていたのかと思う」「自分のペースで学んでいるので安心してきていると思う」など、子どもたちの頑張りが認められた場面にも出会うことができました。



2つ目は、本校の特色である「農園での活動」からです。先日、6年生が生産・収穫した多種の野菜を購入し、いただきました。一口の野菜をいただきながら、ふと、この1年間の子どもの活動、地域の方々のご支援、畑の先生方のサポート、そして本校職員も行ってきた作業など、いろいろな人や環境との出会いが思い出されました。これは冒頭にも述べた、確かな歩みに向けて地道な努力を重ねた、成果の一つでもあると思います。土と向き合う、野菜と向き合う、関わってくださる人と向き合う、最後は自分と向き合う、様々な出会いの中から人として、学校として、成長させていただきました。やはり、『つながり』というものは、大切なものなのだと思えた場面でした。



あと1か月で今年度も終了します。子どもたちも、保護者の皆様も、地域の方々も、学校を支えてくださるすべての方々も、温かいつながりをくださって本当にありがとうございました。皆さんのつながりで得られたあたたかい気持ちを力にして、今年度をしっかりとまとめ、次年度につながれたらと思います。

